

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：一般社団法人しなの福祉教育総研	所在地：長野県上田市真田町長 6918-1
評価実施期間：令和元年7月3日～令和元年12月20日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 060972 060672 050231	

2 福祉サービス事業者情報（令和元年9月現在）

事業所名： （施設名）木曾町立三岳保育園	種別：公立保育所
代表者氏名：木曾町長 原 久仁男 （管理者氏名）三岳保育園長 古本 里美	定員（利用人数）： 30名
設置主体：木曾町 経営主体：木曾町	開設（指定）年月日： 昭和46年4月1日
所在地：〒397-0101 長野県木曾郡木曾町三岳6634番地の1	
電話番号：0264-46-2152	FAX番号：0264-46-2182
ホームページアドレス： https://www.town-kiso.com/kodomo/hoikuen/	
職員数	常勤職員： 11名 （専門職の名称） 名 非常勤職員 5名
専門職員	保育士 9名 保育士 3名
	給食調理員 2名 給食調理員 2名
施設・設備 の概要	（居室数）10 （設備等）保育室 遊戯室 沐浴 洗濯室 調理室 会議室 休憩室 職員室

3 理念・基本方針

生きる力の基礎を育む ～生きる力の基礎を身につけた子ども～
① いきいきと遊ぶ子ども 様々な環境に積極的にかかわり夢中になって遊ぶ子ども
② 豊かな心を持った子ども 友だちを思いやり人とのつながりを大切にする子ども
③ 元気でたくましい子ども 心も体もしなやかでたくましい子ども

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

園開放 園庭開放—未就園の親子に園を開放し交流したり遊んでもらう中で相談に乗ったりする。 保育参加—保護者に保育士体験をしてもらい子どもの育ちや子育ての楽しさをしてもらう。 社協を含めた様々な交流—いろいろな年代と交流を持ち優しさや温かさを感じ思いやりの心を育む ALT—外国人教師と生活する中で異文化に触れ視野を広げる。
--

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回初受審
---------------	-------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

<地域性を活かした取組み>

教育及び保育の内容に関する全体的な計画では、「地域へ足を運び自分たちの住む地域を知り、親しみを感じ、つながりを大切にする」とあります。旧園舎、保育園が自由に使える山の遊び場、田んぼ等への散歩、商店での買い物、りんご狩り、乗馬体験、近隣の保育園と交流、社会福祉協議会に所属するボランティア団体の方々と一緒に畑作りをする、地区の和太鼓演奏の活動に参加する等、地域の特性を生かした保育が取られています。小学校との連携や交流も計画的に取り組んでいます。子どもたちは、自分たちの住む地域を理解し、親しみを持って地域の方々と交流をしています。子ども自身が協力し合い取組んできたことを披露することにより、子どもたちの自信へとつながっています。高齢者の方々の集いに参加する触れ合いは、優しさや温かさを感じ思いやりの心を育てています。公民館での豆まき、地区のお祭り等に参加して子どもたちは地域を盛り上げています。

<情報の共有化に向けた取組み>

情報の共有化を図るために毎朝の朝会、定期的に行う職員会があり、職員会では、一人ひとりの子ども・保護者の必要な情報、日課、その他必要な内容が園長、担当者から伝えられています。定期的に開かれる職員会では、事業計画、保育計画、保育実践、評価・反省、行事計画、行事反省、標準の実施方法の確認、復命研修等が報告されています。検討内容を記録し、参考資料が綴られいつでも閲覧できる場所に置いています。欠席した職員には説明をし、資料を配布して周知しています。園日誌には園長が身近に起きた事故の事例を提示し事故防止を促した内容、訪問者等記載しています。保護者からの相談記録簿が作られ把握できる配慮をしています。研修復命書に個々の職員が確認印を押す等して職員が情報の共有を図るための取組みを積極的に行っています。

◇特に改善する必要があると思う点

<標準的実施方法の適切な文書化と定期的な見直し>

標準的な実施方法として「保育のハンドブック」を町内4園の園長会が中心となって、昨年度に作成しています。既存の各園で活用していたものを整理し、ガイドライン等の改正を踏まえた新たな知見、視点等も取り入れています。また、職員や保護者からの意見や提案が各種マニュアルに反映されることも求められます。職員の異動もあり、標準化へ取り組む利点もありますが、危機管理、プライバシーへの配慮等各園で独自の項目や留意点も整理して置く必要があります。今後さらに、町内の4園共通の項目として苦情解決や相談要望に対応する体制、ボランティアの受け入れ体制、健康管理や記録様式の見直し等が期待されます。

<保護者アンケートの取組みに期待したい>

保護者からの意見、要望等は、意見箱の設置、日常的に連絡帳、登降園時に保護者とのコミュニケーションで把握し、保護者会総会、クラス懇談会、個人懇談会等で保護者からの意見、要望等が把握されています。出された意見・要望等は検討し改善に向けています。保育参観日に給食の試食会が行われアンケートを取り、給食に関する感想、要望が寄せられています。また、行事についても、アンケートに取り組んでいます。

子ども・保護者が願う保育は、保育園が一方向的に判断することが困難であり、子どもがどれだけ満足しているか双方向性の観点が必要です。保育の内容、生活環境等、保育園全般に関する子ども・保護者の満足に対する意見を把握するためのアンケートの実施を組織的、定期的に行うことが大切です。アンケート結果にもとづいて保育の質の向上に結び付け、子ども・保護者の満足の向上に向けた取組みが期待されます。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目(別添1)

内容評価項目(別添2)

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添4）

(別添4)

第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

(令和2年1月27日記載)

第三者評価にあたり保育現場を見て頂いたことで、これまでの保育園運営について改めて見直す良い機会となりました。

全職員が地域交流や職員間の情報共有の充実等、園の良い所を認識することができたと共に、保育内容や保護者の方への周知方法や対応の仕方等詳細にマニュアル化しなければならないことなど、改善すべき点も見え今後の課題となりました。

保護者の方の園へ対する思いを受け、これからも良い点はさらに良くなるよう、改善すべき点は保護者、地域の皆さんにご協力を頂きながら職員一丸となって取り組み、より一層地域に根付いた保育園を目指していきたいと思えます。

木曾町立 三岳保育園 園長 古本 里美